

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170400881), 法人名 (有限会社 ユースフル), 事業所名 (グループホーム 星の家 (1階 彦星)), 所在地 (札幌市手稲区稲穂1条1丁目8番18号), 自己評価作成日 (令和4年7月30日), 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍になり3回目の夏を迎え、職員は朝から入居者様一人一人のお部屋の窓を開け、換気・消毒をし、そこから本来の仕事に入ります。おかげさまで、現時点で入居者様の感染は出ておらず、安堵しております。ただ、入居者様の外出の機会が極端に減少してしまったことやご家族様方の面会を制限しなければならなかった事は、大変申し訳ない気持ちでおります。また、外食の機会が減ってしまったため、これまで以上に食の楽しみを味わって頂けるように日々の食事に季節感を取り入れ、揚げたてのかき揚げで天井や本格的な天津飯を召し上がって頂くなど、色々趣向を凝らすメニューを用意し手作りで提供させて頂いております。これからの時代、コロナとの共存生活が主流となり、ホームとしても従来の行事など含め、改める所、新しく取り組む所を精査し、理念で謳っている『人格の尊重 楽しみのある空間作り 私たちはこの開かれた地域に愛され信頼されるグループホームを目指します。』に沿って、入居者様が明るく元気で、笑顔が絶えない毎日を過ごして頂けるよう支援に努め、また、ご家族様が安心信頼して頂けますよう日々精進して参ります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0170400881-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170400881-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年8月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、手稲区のJR稲穂駅に程近い閑静な住宅街にある。管理者を中心に開設以来取り組んでいる～人格尊重と地域と共にある姿勢～を堅持し、地域に根差した住民の信頼に資する運営を実践している。地域からは良好な理解と協力があり、行政や同業者とも協働し、地域高齢者福祉にも寄与している。事業所の特色として、長年調理に関わられていた代表者の思いで、食に関しては豊富なメニューと食材を提供し、皆で一緒に作る料理は利用者に好評で、食の面からも健やかな暮らしを支えている。コロナ禍により、地域交流や外出行事等に制限はあるが、近隣の散策、道沿いの花壇の整備手伝いや外気浴をするなど、生活全般が楽しく、且つリハビリ効果につながる活動の充実も努めている。利用者や家族の繋がり支援については、従来からの個別便りや電話の頻度を上げ、面会方法の充実も職員間で検討しながら、生活状況や受診結果、食の楽しみ等、多様な情報発信に努めている。今後も更なる地域との共生・還元への尽力が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やスタッフルームに理念を掲示し、共有し、理念に基づいた仕事ができるように努めている。	理念を目につく場所に掲示し、日常的に共有している。主に申し送りやミーティングの場で振り返りながら、理念への理解を深めており、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、清掃活動・花壇づくり等への参加「子供110番の家」として、交流に努めている。現在は、コロナ禍の影響により町内会活動への参加は、行われていない。	通例では、積極的に地域行事に参加したり、ホームの避難訓練などに協力をお願いする等、相互の協力関係作りに注力している。また、ボランティア等の来訪を受け入れ、地域とのふれあいを大切にしている。現在は花壇の整備や草むしり等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により、事業所内に町内会の方や外部の方をお招きする事は出来ないが、運営推進会議の議事録により、日頃の取り組みや問題点を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。現在は、コロナ禍により、事業所内のみで、入居者様を交えて行っている。行事や入居者様の様子、不適切対応等について話し合いを行いサービス向上に役立っている。	通例では、家族、地域代表、行政が参加し、定例で開催している。運営状況や現状の問題点が論議されており、メンバーから意見を聞き取り、運営に活かしている。現在は相互の自粛により、書面での開催となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新申請の手続きや事業所の報告は、管理者やケアマネジャーが主に行っており、不明な点等については、アドバイスを頂き、参考にしてている。	市や区の担当者や包括支援センターからは、定例の運営推進会議での運営状況報告の他、メール・電話での相談や随時指導、アドバイスを受け、運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、防犯の為、日中・夜間に限らず行っている。ミーティング等で、身体拘束について学び、拘束しないケアに努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、虐待も含め、具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で、虐待や不適切対応について学び、話し合いをし、お互いに気が付いたことは、声を掛け合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で以前学んでいるが、必要に応じ、再度、学ぶ機会を持つように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項も含め、入居者様やご家族に十分な時間をかけて説明を行い各同意書にもご理解を頂いている。料金の改定があった場合にもその都度、説明をし、納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見・要望は、日々の対応や運営推進会議で聞き、御家族様からは、面会時や電話、また、アンケートなどから伺い、反映している。	面会はガラス越しや玄関、敷地内等、多様な方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、弾力的に再開し、意見聴取の機会を持っている。個別の生活状況・健康状態について、詳細に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個人面談をはじめ、日々の申し送りや毎月のミーティングの際に意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	主にミーティングの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が随時相談に応じる等、話しやすく、働きやすい環境作りにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験年数やスキルの他、家庭環境や身体影響も考慮し、働きやすい就業環境を整える事に努めている。介護職員処遇改善給付金の支給も年2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の経験やスキルを考慮し、外部研修への参加の機会を設け、育成に努めているが、コロナの影響により、研修の機会は、減少している。		
14		て 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により、市や区が主催の管理者会議、親睦会の中止が多いが、リモート会議や電話での交流機会は設けており、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に管理者やケアマネジャーが面談を行い、収集した情報をスタッフ間で共有し、安心できる様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に得た情報を基に御家族の要望等を伺いながら、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	収集した情報を基に入居後も日々の対応にて必要な支援を職員間で考え、共有し行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事はお願いし、手伝って頂いたり、一緒に行う等支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子を電話やお便りでお知らせし、面会に来て頂くなど、ご家族との絆を大切に支え合う関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、ご本人とご家族との面会時間は限られているが、昔の写真をご覧になったり、思い出話を聞くなど、関係を繋げるよう支援に努めている。	通例では、希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、支援している。コロナ禍において、現在は時間を制限しての面会としたり、電話連絡の頻度を上げることなどで、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や個性を考慮し、孤立やトラブルがないように見守りや声掛けを行い支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族より、近況についてなど電話等でのやり取りがありましたが、コロナ禍により関りが持てずにいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、言葉や表情、会話から把握するように努めている。出来ない事については、納得される様、説明を行っている。	毎日の生活に寄り添い、支援してきた中から、好き嫌いや希望等について、利用者から具体的な思いを聞き取り把握し、カンファレンスを重ねながら職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を参考にし、また、日々の関わりの中で本人や家族から聞いたりし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、様子や変化を見守り、介護記録に残し、職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや日々の申し送りで情報を共有し、見直しを行い必要なケアに合ったケアプランを作成し、ご家族の同意を得ている。	介護計画は、日々のモニタリング成果、職員による気付きに合わせ、家族の意見、要望を聞き取り、個々の介護計画変更・新計画の最適案を職員間で協議し、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子やケアプランの実施等、個別のケース記録に記入し、毎朝の申し送りにて情報を共有し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やご家族の状況に応じて、病院への受診・必要物品の購入等その他必要な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、外出等も制限があり、地域資源を活用する機会があまりない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居の段階でご家族と話し合いながら決めており、定期受診や臨時の往診にも対応して頂き、適切な医療が受けられるように努めている。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。協力医療機関からの訪問診療結果を、配置の看護職員が健康面も含め、総括管理して、個々の医療対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、入居者様の変化や気が付いたことを看護職員に報告相談し、指示や助言を受けている。看護職員は、必要に応じて主治医に連絡し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者・看護師・ケアマネジャーが対応し、病院との情報交換を行い、早期退院ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者・看護師・ケアマネジャーが対応し、入居時に重度化した場合のことを説明している。看取りは、行っていない。	看取りに関する指針をもとに、あらかじめ話し合い家族の意向を確認している。また、カンファレンスにて終末期の関わりなど話し合い、ご家族にも相談し、方向性を出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていないが、ミーティングや内部研修で、対応の仕方を学んでいる。緊急時や救急時のマニュアルも作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1度の避難訓練を夜間想定し、行っている。地域の方々にも協力をお願いしているが、コロナ禍においては、ホームのみで行っている。	火災を想定した防火訓練を定例で実施している。地域町内会との協力体制、役割も含め、話し合いを行い、自家発電機や備蓄品も確認しながら、不意の災害に備えている。	自然災害に関する避難訓練内容のさらなる充実と家族、関係者への避難場所の周知が検討されている。計画の進展に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『人格の尊重』は、ホームの理念にもあり、常に言葉掛けや対応に気を付けている。	職員は利用者の人格・個別性の尊厳を介護の基本と捉えて、いかなる時もその尊厳を損なうことない介護に専念している。定期的に接遇やケア手法等の見直しの機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の対応の中で、スタッフの押し付けにならないように、入居者様が思いを表せるように声掛けや傾聴に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、希望に沿って楽しく過ごせるように支援しているが、食事等、時間が決まっていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用されている。また、季節に合った服装が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の様子を見守りながら、野菜の皮むき・テーブル拭き・食器拭き等、お手伝いして頂いている。また、希望を聞き、おやつ作りをレクリエーションに取り入れている。	献立や買い物は調理人であったオーナーが行い、時には本格チャーハンが食卓に並ぶこともある。新鮮食材を眺めることから食を楽しみ、利用者と一緒に作ること、食べることを大切にしている。おやつレクや出前レクを取り入れ、食事を楽しみあるひと時としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の提供量は、一人一人の健康状態により決まっており、減量・増量や薄味など、出来る範囲で応じている。また、きざみ食や苦手な物を外すなども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に声掛けを行い、口腔ケアを実施している。自力で出来ない方には、介助にて支援し、定期的に歯科医の往診も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、間隔を見ながら声掛けやトイレ誘導を行い個々に応じた支援を行っている。	排泄の自立支援は利用者の個別性にも関わる。職員は個々の心身の状況や排泄パターンなどをチェック表を活用して共有する等、個々のトイレでの自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供し、献立に野菜を多く取り入れたメニューや水分量の確保、体操・歩行運動など体を動かす機会も設けている。必要に応じ、下剤による排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴が出来るように、ホームで決めた時間に対応している。一人一人の体調や希望に寄り添い無理強いすることなく支援している。	個々の希望、状態に合った入浴を心掛けている。無理強いすることなく、時間や担当者に変化をつけ、好みの入浴剤を使用する等、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のその日の様子に合わせて、傾眠されている時には、居室で休んで頂いたり、夜間は、安心できるよう声掛けや見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を個人別にファイルしており、変更時には、連絡ノートにて確認・共有を行い、嚥下状態などその方にあった服薬の工夫をに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の情報や日々の関わりの中で、お手伝いや読書・編み物・塗り絵・歌会等、楽しい時間を過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出が難しく2年ほど外出レクリエーションは、行っていない。天気の良い日に散歩や外気浴・花見等の支援を行っている。	全体での外出行事は自粛しているが、個別に声掛けし、周辺の散策をしている。日常生活に運動を取り入れたり、テラスで外気に触れる等、職員は利用者の気分転換や筋力低下防止の体操、レクを行うことで心身の機能維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を所有する事はなく、日用品の購入のお預かり金として、ホームで保管をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の希望をされる方には、管理者が必要に応じて取り次ぎをし、話をしている。手紙のやり取りをしている人はいらっしやらない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間や居室は、毎日、掃除をしている。季節ごとに壁の飾りや置物等を変え、工夫をしている。食事中は、テレビを消し静かな音楽をかけ、落ち着いて食事ができるような環境づくりを行っている。	共用空間は程良い広さで、温・湿度や換気、テレビ音や照明、眩しさも個々の様子を見て都度、調整している。清潔に配慮し、壁や天井に季節の装飾を掲示し、落ち着いてゆったり過ごせるよう、それぞれの心地よい居場所感を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う良い関係をスタッフが配慮し、テーブル席を配置している。食事の時以外では、思い思いの所で過ごして頂いたり、一緒にレクリエーションを楽しんで頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御本人の馴染みの家具や飾り物を置き、安全にも配慮している。また、毎日掃除をし、気持ち良く過ごせるよう努めている。	本人の安心できる環境を整えるために、入居前の自宅の様子を理解し、動線やベットの配置を検討している。思い入れのあるものが持ち込まれ、家族写真や手作りリースを飾り、裁縫箱や手芸材料など趣味の物を手元に置いて、自分らしく安心して暮らせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には、歩行を妨げる危険な物を置かず、安全に移動できるように見守っている。居室の入り口やトイレ等に表示をし、わかりやすくしたり、手すりも設置している。		